

# 衆議院国土交通委員会ニュース

平成 21.1.13 第 171 回国会第 2 号

1 月 13 日（火）第 2 回の委員会が開かれました。

## 1 平成二十年度における地方道路整備臨時交付金の総額の限度額の特例に関する法律案（内閣提出第 3 号）

- ・金子国土交通大臣及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・穀田恵二君（共産）が討論を行いました。
- ・採決を行った結果、賛成多数をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。  
（賛成 自民、公明 反対 共産）

（質疑者及び主な質疑内容）

### 穀田 恵二君（共産）

- ・平成 21 年度予算案において大戸川ダム関係の事業費が減額され、滋賀県道大津信楽線の付替え道路工事の予算が認められなかったことについて、滋賀県、京都府、大阪府の 3 知事が国土交通大臣に対し、予算確保を求める要請を行ったが、この点について、どのように対処するのか大臣の見解を伺いたい。
- ・地方道路整備臨時交付金（以下「臨交金」という。）の財源である揮発油税収の減少が見込まれた時点で道路整備事業の見直しを行ったか。臨交金は、地方の生活道路の整備に使われるべきで、地域高規格道路などの大型道路にも使われ、しかも、その財源を建設国債によることとしていることについて見直す必要があると考えるが、大臣の見解はどうか。
- ・福田前首相は、道路特定財源を一般財源化し社会保障等に充てるとしていたが、地域活力基盤創造交付金の 8 割は道路整備に使うとされている。道路特定財源の一般財源化の趣旨・理念について、大臣はどのように考えるのか。

### 三日月 大造君（民主）

- ・平成 20 年度第 2 次補正予算における 2 兆円の定額給付金について、世論調査でも、多くの国民が反対しているという結果が出ているが、内閣の一員である国土交通大臣として見直しを提言する考えはないか。
- ・離職者に対する公営住宅等の活用等、現在どのような取組が行われているのか。また、県営住宅への入居申込書がハローワークに置かれているが、入居の手続がハローワークでできるようにするなど、住宅当局と労働当局との連携をより深める必要があるのではないか。
- ・パッケージで交付される臨交金については、実施主体が事後的に評価することになっている。臨交金は交付金事

業であることから、国はその評価について評価を行うことになると思うがどうか。交付金ではなく、交付税のほうが良かったのではないかと考えるがいかがか。

### 後藤 齋君（民主）

- ・定額給付金について、大臣が辞退から受給に心変わりした理由は何か。
- ・「建設業の資金調達の円滑化」等補正予算における他の施策も勘案し、本法律案の必要性の検証や、必要な施策の追加を大臣のリーダーシップによって行っていくべきでないか。
- ・必要な公共事業の前倒しなどを国土交通大臣として提案していくべきではないか。

### 川内 博史君（民主）

- ・広島県福山市の鞆の浦埋立架橋計画に関する埋立免許についての国土交通大臣の認可に当たっては、地域の利便性と歴史・伝統・文化等の両立などを考え大臣自らが判断する必要があるのではないか。
- ・公共投資の乗数効果の方が定額給付金による効果よりも大きいとのことであるが、そのとおりでよいか。
- ・補正予算から定額給付金を分離し、本当に困っている人に社会保障給付が行われるよう補正予算を組むべきではないか。